

令和 4 年 6 月 19 日現在

機関番号：32501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02423

研究課題名(和文) 日本古代における詩文表現の展開に関する基礎的研究

研究課題名(英文) A Basic Study of the Developments in Poetic Expression in Ancient Japan

研究代表者

白井 伊津子 (SHIRAI, Itsuko)

淑徳大学・総合福祉学部・教授

研究者番号：40323224

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本における中国文学受容の実態を総合的に把握するために、『性霊集』に収められる空海の詩文の出典考証、表現研究を行った。具体的には次の3点である。『性霊集』の注釈書について、これまで流布していなかった写本、版本について調査研究を行い、その性格を考察しながら、諸注釈書の一覧を整えた。『性霊集』の詩文の表現に関する出典考証として、運敞『性霊集鈔』、『性霊集便蒙』等の諸注を踏まえ、表現の逐一について被注一覧を作成し、出典考証を行った。『性霊集』表現分析として、出典元の表現と実作の表現との比較を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における中国文学受容の総合的な把握のためには、空海の詩文の緻密な検証が必要不可欠である。本研究では、その基礎的研究として、『性霊集』に収める空海の詩文表現の出典を掲げる注釈書類をとりあげ、その出典考証を中心に行った。今後の『性霊集』の分析、空海の表現方法の分析に伸展させていくための重要な足がかりを築くことができた。加えて、近世初期の学僧集団をめぐる学問研究の態度の実態解明にも資する研究となった。

研究成果の概要(英文)：In order to systematically grasp the facts surrounding the importation of Chinese literature into Japan, a comparative study has been conducted between the Chinese originals and expression mode of their Japanese counterpart text in translation, namely Kukai's poetry contained in "Shoryoshu". The following are the three main points of this study.

(1) A compendium of Shoryoshu's various commentaries has been made, after an inquiry into texts hitherto not prevalent has been made taking into consideration their respective characters. (2) An inquiry into the originals has been conducted after an annotated table of each of the expressions being made based on comments in Onkei's "Shoryoshu Sho" and "Shoryoshu Benmo". (3) Comparison has been drawn between expressions in the originals and actually realized Japanese poetry, in the form of an analysis of expressions in "Shoryoshu".

研究分野：日本古代文学

キーワード：性霊集 性霊集便蒙 空海

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

平安初頭期における漢詩文の隆盛は、勅撰三集(『凌雲集』『文華秀麗集』『経国集』)の編纂のみならず、空海による多様な文学活動(『性霊集』、『文鏡秘府論』『万象名義』の編纂など)と相俟って、漢文学史上の一時期を画すものである。この期の営為が、「文章経国」(魏の曹丕「典論」)の思想はもとより、中国の六朝から初唐・盛唐の文学の影響下にあつて、後に続く『古今和歌集』の歌に少なからぬ影響を与えるに至っていることは、小島憲之氏(『古今集以前』1986)、川口久雄氏(『平安朝日本漢文学史の研究 上・中・下』1975-1988)、渡辺秀夫氏(『平安朝文学と漢文世界』1991、『和歌の詩学—平安朝文学と漢文世界—』2014)、後藤昭雄氏(『平安朝漢文学史論考』2014)らが漸次明らかにされてきた。しかしながら、検討すべき文学作品の数は膨大であり、かつ中国文学との緻密な比較検討を必要とするため、さらなる研究の蓄積がもためられていることは言うまでもない。また、かかる研究は、平安初頭の詩文と古今和歌集を繋げるものではあるけれども、上代からの展開については、いまだにその間隙が埋められているとはいえない状況である。

この課題に着実に取り組むべく、率先して行うべきは空海の詩文の検討ということになる。とりわけ空海の詩文集『遍照發揮性霊集』(10巻)は、空海の生涯や思想を明らかにするための資料的な価値がきわめて高く、『弘法大師全集 第三輯(巻十)』(長谷宝秀編 祖風宣揚会 吉川弘文館1911)『定本弘法大師全集 第八巻』(弘法大師著作研究会編 高野山大学密教文化研究所 1996)『傍訳 弘法大師空海』(宮坂宥勝編著 四季社 2001)などに収められた注釈も、訓下しを中心とする訳注によって、空海思想の普及に大きく貢献してきたが、空海の詩文について、文学的な観点からの研究が立ち遅れていることは否めない。

### 2. 研究の目的

空海が将来した仏典以外の書物、いわゆる外典から彼が何を学び、詩作に活かしていったのかなど、精密な検証を経て解明されなければならない問題は山積している。いまだに課題の多い空海の詩文について、その緻密な検証を率先して行う必要があり、当該研究は、まずは空海の『性霊集』の出典考証、表現研究をもって、総合的把握のための基盤を確固たるものとすることを目指した。

『性霊集』の表現の一々について緻密な出典考証を加えていくために、『性霊集』など、空海の著作の注釈書を手がかりにすることが有効である。具体的には、真弁『性霊集略注』(貞応2年(1223)年)、実翁『性霊集抄』(元和7(1621)年)、運徹『性霊集鈔』(慶安2(1649)年序)、運徹『性霊集便蒙』(延宝3(1675)年刊)等の諸注について、自筆本、写本、版本も含めた諸本の丁寧な調査からはじめ、次に注釈書の読解をもとに、『性霊集』の詩文の語句の出典の指摘について精査し、検証を加えることを目的とした。

### 3. 研究の方法

『性霊集』およびその注釈書の文献調査・資料整理より開始し、注釈書の読解に基づく出典研究、注釈態度や詩文の表現の比較研究について、代表者および研究分担者が役割を担うと同時に、共同研究も随時取り入れることにした。

#### (1) 文献調査・資料整理

『性霊集』およびその注釈書の調査と整理

#### (2) 調査研究

- ①『性霊集便蒙』版本のとくに書き込み本についてその性格を検討。
- ②『性霊集便蒙』運徹の自筆本と版本との校合、調査した資料の系統整理。

#### (3) 出典研究

『性霊集便蒙』の出典考証一覧を作成

#### (4) 比較研究

- ①『性霊集』作品の韻律調査。
- ②『性霊集』の表現研究。

### 4. 研究成果

日本古代における詩文表現の展開の相を解明することを目的とする中で、空海の詩文表現の分析にむけた基礎的研究として、次の3点について成果が得られた。

#### (1) 『性霊集』の注釈書の調査と検討を通して、現存する注釈書の写本、版本の整理を行った。

『性霊集便蒙』の運徹自筆本については、当該書を実際に確認しながら、詳細な書誌情報を巻ごとに記述することができた。これにより、運徹を中心とする学僧集団による総合研究の成果として『性霊集便蒙』を位置づけ、ここに見られる、研究を推し進める学僧集団のあり方や注釈の態度をさらに掘り下げる必要のあることを確認できた。

(2) 出典考証として、『性霊集便蒙』に引用される、詩文の語句の出典について、原典にあたって、原典との本文の異同なども確認しながら、「出典考証一覧」を作成し、その一部を公刊(『性霊集便蒙』引書考証稿)した。仏典から経史子集に及んで、およそ300種の典籍が典拠として掲げられる。運徹の蔵書目録等も参照することにより、それらの出典の指摘が原典によるものな

のか、類書によるものなのか、先立つ注釈書等によるものかといった、注釈の態度について新たな課題を見いだすこととなった。

(3)『性霊集』に関連する古代文学の研究プロジェクトと共同して公開シンポジウムを開催(2019年度、2020年度)し、その成果を報告するとともに、報告集として公刊(『仮名文字一万葉仮名と平仮名一』『漢字文化の受容—手紙を学ぶ、手紙に学ぶ—』)した。さらに合同研究会を開催して、『性霊集』を輪読し、詩文の校訂や表現分析を進め、一部を原稿化している。今後、対象とする作品を広げ、継続して表現分析を進めていくための素地が整った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 白井伊津子, 平舘英子, 岩田芳子, 安井絢子, 茂野智大	4. 巻 45
2. 論文標題 『性霊集』便蒙引書考証稿(二)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 長谷川仏教文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 (1) - (38)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西一夫	4. 巻 14
2. 論文標題 平安初期漢文書簡にみる書儀の受容 最澄の書簡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 57-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西一夫	4. 巻 65
2. 論文標題 空海書簡の表現 独創と汎用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語と日本文学	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井雅子	4. 巻 1270
2. 論文標題 天皇と醍醐寺(二) 後宇多天皇による醍醐寺紹流	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神変	6. 最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井伊津子	4. 巻 44
2. 論文標題 曇誌における「死」の表現をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 長谷川仏教文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 201-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井伊津子, 平舘英子, 岩田芳子, 安井絢子, 茂野智大	4. 巻 44
2. 論文標題 『性霊集便蒙』引書考証稿(一)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 長谷川仏教文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 1 - 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平舘英子	4. 巻 229
2. 論文標題 「青雲」考-空間を認識するという視点から-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 萬葉	6. 最初と最後の頁 1 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西一夫	4. 巻 47 - 11
2. 論文標題 山上憶良は生老病死をどのように歌ったか : 老・病・死と子 (総特集 万葉集を読む)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井伊津子	4. 巻 14
2. 論文標題 修辭と表記ー序歌における懸詞のあり方からー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「第14回若手研究者支援プログラム 仮名文字ー万葉仮名と平仮名ー報告集	6. 最初と最後の頁 72 - 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平館英子	4. 巻 1
2. 論文標題 大伴家持と紀郎女との贈答歌の表現	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大伴家持歌をよむ	6. 最初と最後の頁 55 - 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平館英子	4. 巻 38
2. 論文標題 序歌の方法ー否定を含む表現をめぐってー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 萬葉集研究第38集、塙書房	6. 最初と最後の頁 353 - 386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口孝介	4. 巻 64
2. 論文標題 説話の語り変えと聖遺物 聖徳太子南岳取経説話をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 筑波大学, 日本語と日本文学 64	6. 最初と最後の頁 1 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口孝介	4. 巻 2018
2. 論文標題 白居易の手紙、平安文人の手紙	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018和漢比較文学研討会論文集	6. 最初と最後の頁 195 - 202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西一夫	4. 巻 28
2. 論文標題 「月」への憧憬と抒情 「九月二十日のころ」(『徒然草』)の教材分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 信州大学国語教育学会 , 信大国語教育28	6. 最初と最後の頁 36 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西一夫	4. 巻 8
2. 論文標題 「藩文庫」の古典籍 古典の教授と典籍	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 信州大学附属図書館研究, 8	6. 最初と最後の頁 167 - 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井雅子	4. 巻 1
2. 論文標題 三宝院門跡と門徒 主に室町時代を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西弥生編『シリーズ中世の寺社と武士1 醍醐寺』、戎光祥出版	6. 最初と最後の頁 236 - 262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平館英子	4. 巻 118
2. 論文標題 万葉和歌における様式 序詞をめぐる	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 上代文学	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 谷口孝介
2. 発表標題 日本古代の文化複合 折口信夫『死者の書』を読む
3. 学会等名 輔仁大学日本語文学科国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井雅子
2. 発表標題 指定目録作成のための調査と書誌 - 主に『醍醐寺文書聖教』を通して
3. 学会等名 日本宗教学文献調査学 合同研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平館英子
2. 発表標題 「青雲」考 - 空間を認識するという視点から -
3. 学会等名 萬葉学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 岩田芳子
2. 発表標題 「紐小刀」考
3. 学会等名 萬葉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷口孝介
2. 発表標題 菅原道真と改元
3. 学会等名 中古文学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷口孝介
2. 発表標題 日本における中国文化の受け入れ方
3. 学会等名 ,EXPLORING NEW FRONTIERS IN SOCIAL SCIENCES AND HUMANITES: 1st UTM-TSUKUBA JOINT SYMPOSIUM (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷口孝介, 山澤学
2. 発表標題 日本の元号と典籍
3. 学会等名 第3回EAJS日本会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井伊津子
2. 発表標題 修辞と表記
3. 学会等名 若手研究者支援プログラム（奈良女子大学古代学・聖地学研究センター）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷口孝介
2. 発表標題 白居易の手紙、平安文人の手紙
3. 学会等名 第11回和漢比較文学会特別例会（台湾大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷口孝介
2. 発表標題 杜預の「凡例」と『日本三代実録』，
3. 学会等名 第12回和漢比較文学会特別例会（北京理工大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西一夫
2. 発表標題 空海書簡の表現 独創と汎用
3. 学会等名 筑波大学日本語日文学会，第41回筑波大学日本語日文学会大会（筑波大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西一夫
2. 発表標題 『杜家立成雜書要略』の臥病関連文例の特質
3. 学会等名 和漢比較文学会 , 和漢比較文学会第37回大会 ( 帝塚山学院大学 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤井雅子
2. 発表標題 後宇多天皇と真言密教 三宝院流憲深方の相承
3. 学会等名 第20回智山総合研修会 ( 総本山智積院 別院真福寺 ) ( 招待講演 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷口孝介
2. 発表標題 「秋雁」と「櫓声」と 比喻の和漢比較
3. 学会等名 和漢比較文学会例会 ( 東部 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷口孝介
2. 発表標題 説話の語り変えと聖遺物 聖徳太子南岳取経説話をめぐって
3. 学会等名 和漢比較文学会特別例会 ( 中国・西北大学 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷口孝介
2. 発表標題 菅原道真の「状」と「書」と 「奉昭宣公書」を読む
3. 学会等名 若手研究者支援プログラム（奈良女子大学）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平舘英子
2. 発表標題 大伴家持と紀女郎との贈答歌の表現
3. 学会等名 高岡市万葉歴史館（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西一夫
2. 発表標題 『杜家立成雑書要略』の宴席関連文例の特性
3. 学会等名 萬葉学会全国大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 西一夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 『萬葉集研究 第40集』（「離別の情感 『杜立成雑書要略』所収友人関連文例の特質」、pp77-104）	

1. 著者名 谷口孝介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 『萬葉集研究 第40集』(「『日本三代実録』の史観 - 「凡例」と改元記事とを中心に -」 pp105-137)	

1. 著者名 谷口孝介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 輔仁大学徳芳外語大楼	5. 総ページ数 80
3. 書名 2020年度輔仁大学日本語文学科国際シンポジウム「文化における流通」論文集	

1. 著者名 平舘英子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 557
3. 書名 古代文学と隣接諸学 古代の文化圏とネットワーク	

1. 著者名 谷口孝介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 奈良女子大学古代学学術研究センター	5. 総ページ数 70
3. 書名 漢字文化の受容 手紙を学ぶ、手紙に学ぶ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平舘 英子 (平舘英子)  (TAIRADATE Eiko)  (00099269)	日本女子大学・文学部・研究員    (32670)	
研究分担者	西 一夫  (NISHI Kazuo)  (20422701)	信州大学・学術研究院教育学系・教授    (13601)	
研究分担者	藤井 雅子  (FUJII Masako)  (20440084)	日本女子大学・文学部・教授    (32670)	
研究分担者	谷口 孝介  (TANIGUCHI Kosuke)  (40272124)	筑波大学・人文社会系・教授    (12102)	
研究分担者	岩田 芳子  (IWATA Yoshi ko)  (90732967)	日本女子大学・文学部・研究員    (32670)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関